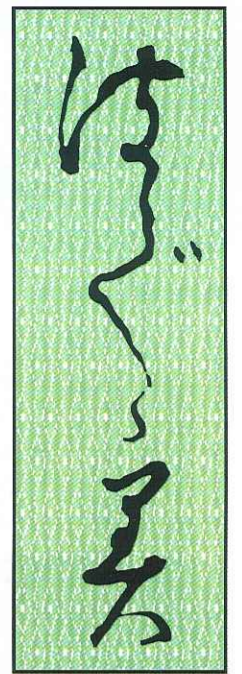


大分県PTA



発行所 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 (097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市高江西1丁目4323番25 いづみ印刷株式会社



第7回 全単位PTA会長 研修会

一步を踏み出すために



参加者に丁寧に語りかける富永県P連会長

かねてより提案のあった、研修会の早期開催希望に、8月初旬に行うなど、新たな試みの見られる会となった。 全体研修会では、富永大輔県P連会長が「県P会長のひとりと」と題し講話。体験に基づいた、会長の役割や考え方について語った。人の感じ方は様々。三百人いれば三百通りの感じ方がある。『自分はこれだ』という観念に執着すると腹が立つこともあるが、『それもいいかな』と受けとめてほしい。『組織体が大きくなればなるほど子どもの姿が遠ざかっていく。 単Pでのクラス懇談会こそがPTA活動の原点、子どもの普段の姿を知るために、先生と保護者のつながりが大切。保護者が自分の子どもに責任を持つて積極的

が、「会長になったからには、保護者の代表としての自覚を持って、一生懸命やってほしい。今、学校にPTAが必要か、という議論があるが、なくてはならないと思ってもらうためにはどうすればいいかを考えるのが会長の仕事だ」と思う。一つでいいので自分のカラーを出した活動を」と経験に基づいた心構えを述べた。 また、その他の会場でも自らの体験や現在の活動、アドバイスなどが語られた。 ○「PTAという組織が円滑に動くためには、必ず学校の協力が要る。パートナーシップを育み、ささいな問題にも共に取り組む姿勢が大切」と言われ役員を引き受けたが、今では、人との関係、子どもとのつながりを考えた時、自分の宝になつていった。やっとなつたと思つている。○「学校の要望に、問題点を執行部や役員と相談しながら決定していくもの。副会長や各々が準備してくれた事を会長として発信していく役目」○「会長になると、入学式、卒業式の挨拶が必ずある。子ども達の目を見て語ることが出来るスピーチ力をつけることも大切」など、各講話会場とも、実践的な内容を含んだものとなった。

▼隣接校制度を利用して、生

▼副会長・各部長さんたちとの連絡を、まめにを行うよう心がけている。

▼それぞれの単P会長として、この学校をどうしたいのかが見えてこない。

「経験を重ね 見えてきたもの」 全体研修会では、富永大輔県P連会長が「県P会長のひとりと」と題し講話。体験に基づいた、会長の役割や考え方について語った。人の感じ方は様々。三百人いれば三百通りの感じ方がある。『自分はこれだ』という観念に執着すると腹が立つこともあるが、『それもいいかな』と受けとめてほしい。『組織体が大きくなればなるほど子どもの姿が遠ざかっていく。 単Pでのクラス懇談会こそがPTA活動の原点、子どもの普段の姿を知るために、先生と保護者のつながりが大切。保護者が自分の子どもに責任を持つて積極的

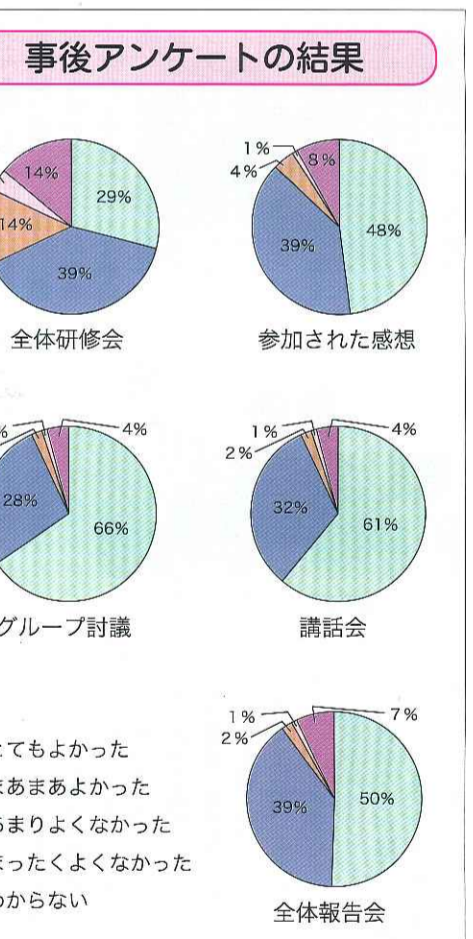
「問題共有し 単P活動へ生かす」 午後からは、会場を分散しグループ討議が行われた。小学校11グループ、中学校5グループ、計16グループの同規模校に分かれ討議。 それぞれがテーマを決め、同じ環境や立場にある単P会長として、意見を交わし有意義な情報交換の場となった。

▼校長先生とのコミュニケーションを大切にしている。メールなどのツールを活用することで情報が入りやすくなる利点も。

▼父兄のPTA参加を促す。父兄、母親の役割分担が決まっています。全体的な参加を増やす努力をしています。

▼「立腰教育」がある。人間が一旦決心した以上、必ずやり抜く人間になるには、一番の心がけとしては、結局「常に腰骨を立てている人間になる。」以外にはない(略)それは我々人間というもの、膝をしゃんと立てていますと心も自然にしゃんと立ててくる(略)膝をしゃんと立て、特に背骨を真直に立てれば心も自然にしゃんと立てる(略)それと、常につま先で立つて離れないのが本来の姿だからで、そのことを昔から「身・心相即の理」と呼んでいるのです。(幻の講話)つねに腰骨をしゃんと立てること——これ人間に性根の入る極秘伝なり(一日一話)『不尽精典』より。

PTA会長として どう考え・動くべきか 第7回全単位PTA会長研修会が、8月3日(土)、大分県教育会館・多目的ホールにて開催された。 テーマは「単P会長として見えてきた子どもの教育について」PTA会長のあるべき姿とリーダーシップについて、各単P会長233名が出席し、充実した会となった。



研心北 ▼児童生徒の姿勢が気になる。教室での学習時の着席姿勢のことは、私の新米教師の頃は前壁に、その正しい姿勢図が掲示されていたが、いつの間にか消えてしまった。 ▼小中学校で必修の書写教科書の最初には必ずその姿勢(着席と執筆)写真が全学年にある。私は敢えて「型にはまる(はめる)のではない」とこの大切さを主張しているのです。 そんな些細な堅苦しいことをと非難が聞こえそうだが、不要なら教科書検定に通る筈がない。一つの学習姿勢の型に馴れて他教科学習時に普遍的な役目も書写学習にはあるのです。未だに習字という平気の先生方もおられるが、今日では単に繰り返し練習するだけの書写学習ではないのです。もっと考える書写学習で、他教科や生活に役立つ書写学習時間を是非実践していただきたい。▼「人生二度なし」と喝破された、哲学者であり、偉大な教育者の森信三の教育理念の一つに「立腰教育」がある。人間が一旦決心した以上、必ずやり抜く人間になるには、一番の心がけとしては、結局「常に腰骨を立てている人間になる。」以外にはない(略)それは我々人間というもの、膝をしゃんと立てていますと心も自然にしゃんと立ててくる(略)膝をしゃんと立て、特に背骨を真直に立てれば心も自然にしゃんと立てる(略)それと、常につま先で立つて離れないのが本来の姿だからで、そのことを昔から「身・心相即の理」と呼んでいるのです。(幻の講話)つねに腰骨をしゃんと立てること——これ人間に性根の入る極秘伝なり(一日一話)『不尽精典』より。

PTA連合会 指定研究発表会

心をはぐくむ

平成24・25年度の2年間にわたり、県PTA連合会指定研究に取り組んできた3校の研究発表が行われた。家庭・学校・地域が連携することを重要視し、子どもを中心として地域の特色を生かした活動の発表となった。2年間の継続的研究の成果が披露され、多くの参加者に感銘を与えた大会となった。

大分市立 植田小学校PTA 11月2日

地域とのふれあいから学ぶ

大分市立植田小学校PTA（児童数473名、会員数359名）は「地域とはぐくむ心豊かなほまれつ子」地域の環・人の輪・心の和」を研究主題に公開発表を行った。

伝統を伝えるとともに豊かな心を育む

午前中の公開活動は、「指導者（地域の方）」、「協力者（保護者）」のもと、物づくり活動を行った。10種類の講座から、子どもたちの希望を生かし、1年生から6年生のたて割り班で活動した。物づくり活動は、ノコギリやカッターなど刃物を使い、地域の方の特技を教えてもらう講座を実施した。弓矢作りでは、指導者が割ってくれた竹をカッターで形を整え、なめらかにして麻紐を結ぶ。完成したら並んで、矢を的に向け飛ばして遊んだ。的に当たった児童は「弓が上手にできた。矢を飛ばすことができて嬉しい」と笑顔で話した。



協力し作業するしめ縄作り

毎年、かかし祭りが開催されるという地域特色を生かして、かかし作り活動も行われた。束ねたワ

PTA指定研究発表は、昭和24年県教委が始めたのをきっかけに始まった他県にはない大分県PTA連の特色ある事業である。現在は、大分市より1単位PTAと、県南・県北の各指定、2年間の研究の成果を公開発表し、今後のPTA活動の振興を図り、大きな成果をあげている。

別府市立 浜脇中学校PTA 11月10日

子どもの自立を支える地域力

別府市立浜脇中学校PTA（生徒数157名、会員数140名）は「地域とのかかわりの中で、はぐくむ別府つ子」地域とPTAと生徒が「つながり」を深めていく「浜脇の街」を研究主題に公開発表を行った。

地域を巻き込んだ活動の継続

午後からの全体発表会では、まず最初に学年部などの専門部の活動報告を行い、父親の会や読み聞かせの会の活動の継続が報告された。



切り絵を教える優しいまなざし

子どもたちは、自分たちの住んでいる地域に興味、関心が深まり、豊かさを実感出来た。2年生は、9月に行った職場体験を朗読劇で発表した。普段見る機会が少ない仕事を体験。仕事の大変さだけでなく、生きがいや、やりがいを感じた。3年生は、ものづくり講座「和太鼓（書道）（写真）（調理）（木工）」の中から自分で選び、学習してきた腕前を披露した。講師はいずれも地域ボランティアの方々。「写真」ではカメラ愛好家の講師が、自身のコレクションの一部を持ってきて、生徒に写真の撮り方を教えていた。生徒は「カメラの素晴らしさを学んだ」と笑顔で話した。「調理」は、みんなで学校で作ったさつま芋も



説明を熱心に聞く生徒

を使い、むしパンを作った。生徒は「班で協力して早く出来た良かった」と満足気な表情。「木工」ではプランターを作成。生徒が材料を切ったり、組み立てを流し作業を行った。これまでに作ったプランターは、通学路に置かれ季節の花が飾られている。「和太鼓」は、毎週2回の練習で息の合った素晴らしい演技を見せた。午後からのアトラクション

全体会は、PTA・地域・生徒が協同して作成したDVDを使い、和田俊二PTA会長が活動発表を行った。年3回の広報誌発行を行う広報研修部、給食試食会を開催する生活部、安全マップを作成する生活部、南地区幼小中合同バザーを運営する学年部、地区清掃やリサイクルをする地区会などが幅広い活動を行っている。毎年2年生が参加する自立式は、PTA・



ダイナミックな書を披露

今こそ子どもの心に生きる「キョウイク」を！

由布市立 挾間中学校 教頭 衛藤 謙二

が、一層求められている。教育・協育・共育



十三年ぶりの現任校に就任するPTA総会議長として、十七年前に発案書の中で、「十七年前に発案した生活サポート隊活動を本年も実施」の文言があった。伝統を引き継いでくれていたことに胸が熱くなった。当時、中学生の「荒れ」生徒の問題行動が学校内外で吹きすさんでいた。その中で始まったサポート活動は、補導することではなく「サポート隊」の腕章を付け、自主的に子どもたちに言葉かけをすることになった。この後「荒れ」は次第に収

動について報告。続いて実践報告が行われた。学校主体で行っていたふれあい活動を、PTA主体で行うことで、地域の方や学校、保護者の交流を深めることができた。「地域の方と子どもたちがふれあうことで、世代間でも心の和を結ぶことができ。地域の方が温かく見守ってくれていることを保護者が実感した」と発表した。石井圭一郎県教育庁社会教育課主任社会教育主事兼主幹は、「このようなふれあい活動は、子どもを通して地域の方と保護者が知り合うことで、子どもたちの様子を語り合うことができる。そして、地域の方は子どもたちを見守り、子どもたちは地域に対して安心感を持つ」と指導講評した。

学校・公民館の共催で、地域の方の出席のもと、将来に関わる講話から、生徒が決意表明し、作文を書いている。多田千栄県教育庁社会教育課主任社会教育主事は「浜脇中PTAさんは子どもたちを中心に置き、活かそうと先ず親が行動し、多彩な活動をさのびた姿が溢れた指定研となった」と指導講評した。

平成24・25年度 大分県

地域とつながり

佐伯市立佐伯東小学校教育友会 11月17日 子どもを中心につながる活動を

佐伯市立佐伯東小学校教育友会（児童数187名、会員数142名）は「子どもを中心に学校・家庭・地域とつながっていきつながることの大切さを知る育友会活動を目指して」を研究主題に公開発表を行った。

地域の一員として できること

午前中は、公開授業が行われた。専門分野を持つ協力者が、各学年ごとに学習活動の支援につとめた。

3年生は味覚教室。自分たちの舌で味わうことで、味の違いを体感した。初めに、甘味や塩味などを感じ、次に、だしなどの旨味から、においや味を体験し、順に発表した。つづいて、一年もの三年もののみそと、自分たちで仕込んだ手作り「東っ子みそ」二ヶ月ものみそ汁の飲みくらべに挑戦。それぞれのみその特徴をとらえた鋭い感想がたくさんあがった。最後に、「食べることをの本質」について講師が、



思いを込めてクリスマスリースを作成

「自分の命をつなぐ食、食べ物に関心を持って、地球のいのちを無駄にしない食を心がけてほしい」と話した。

5年生は、食用廃油を使い、石けんを作った。材料を混ぜる作業の間も、講師が海外赴任時に行った環境教育、石けんづくりをスライドを使いながら話した。たかが石けんではなく、石けんがともて貴重なものもあること、それだけではなく、これから成長する子どもたちへの温かい励ましやメッセージも伝えられた。

6年生は、クリスマスリースづくり。1学期から学習を続けている「まちづくり」の強みも活かされた。

ともに親子で協力して作った1年生のやじろうべえと、2年生のネイチャーすごろく。やじろうべえは、錐で穴をあけたり、左右のバランスを考えたり、自然の材料で楽しくおもちゃを作った。ネイチャーすごろくは、生活科で育てた野菜などの写真を色々な形に切り取り、コメントをつけて作成。女子児童が「みんなで遊べて楽しい」と話してくれたように、教室には



お父さんと一緒に

声も響き、笑顔があふれた。佐伯の歴史を学習し、これから白坪川がどうあればよいかを考えている4年生。iPadを活用し調べた6つの問題を、グループごとに発表した。地域の方のアドバイスを受けながら、自分たちができるまちづくり活動を3学期につなげていく。

つながることの 大切さ

午後からの全体発表会では、家庭・学校・地域とのつながりを大切に取り組んできた活動や、前年度指定校の活動から学んだ取組を、実践している事例も報告した。

多田千栄県教育庁社会教育課主任社会教育主事は「つながることとそれを伝えていくこと、佐伯東小のように育友会活動のいいところを共有してよりよいものを子どもたちに残していくようにがんばってほしい」と指導講評した。

第61回 日本PTA全国研究大会

みえ大会

第61回日本PTA全国研究大会が、「みえに集えば」と見える…三重からの「わくわく」はじまりの地で語り育も子どもたちの未来を、を大会スローガンにかかげ8月23・24日に全国より約8000名の会員が集い、東海北陸ブロック

の三重県で開催された。三重県は、60年前の1953年に第1回の日本PTA全国大会が行われた地であり、第1回の全国大会では、約1300名の会員で両親教育の促進の方策、連絡協議会

の運営、PTAの健全な発達のためPとTの協力の在り方などを討議されたと聞いており、60年の時を経て、討議は少しづつ変わってはいますが、PTA活動に対する熱い思いは変わっていないと感じました。

分科会、全体会を通じ、全国各地の会員が語り合い、日本PTAのメインテーマである「輪・話・和」そして、はじまりの地三重からの「わくわく」が全国各地の会員に広がったと確信いたしましたことを、東海北陸ブロックPTA協議会・三重県PTA連合会の皆様へ感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

佐伯市PTA連合会
会長 足田 啓二

第61回 日本PTA全国研究大会
第69回 東海北陸ブロックPTA研究大会
みえ大会

子どもたちへの思い

命の封筒

別府市PTA連合会



話せない思いをこの封筒に

別府市P連が話し合いを重ねて配布した「命の封筒」子どもがSOSを発信する場所がありそうでない。だからこそ作りたい。そんな願いを込めて今年の7月、1学期の終業式に、市内の中学1年生全員（876人）に配られた。配布は担任の先生にお願いしたが、配布する際の説明

PTAが独自に 子どものSOSを受信する ひとつのツール

はマニュアルを作成し、全市で統一した。先生にも親にもなかなか言えなくても手紙で書ける。思いを書ける。比較的に楽にできるかもしれない。6月5日24時間、窓口をひらいて、PTAへの報告はいつも物事が起きたあと、そして臨時総会と同じことを何十年も繰り返してきた。しかし今回の取組ならば、保護者もスタートラインに立ち、初期段階から情



和田別府市P連会長

届いた手紙については、それぞれの内容によって対応を変えている。ただ、あなたの声はしっかりと届いているよとの返信は、迅速に行うように心がけている。（取材要旨）



私は二人姉妹で育ち、家の中で育てられていない。記憶は無い。活発ではあつたけれど本が好きで、母に言わせれば反抗期もなかったらしい。

我が子の一番の理解者である事は意外と難しい。そして、同じように育てたつもりなのに、なぜか個性も趣味趣向もバラバラだ。そんな悩みを打破すべく、講演会や座談会に参加している。子育ての先輩の経験や有識者のお話を聞き、我が子にあてはまる実践を試みることは大切だけれど、その場合その方法が合っているのか、無理をさせてはいないか、それを見極めるのも親の持つ力「親力」だと思ふ。もしかしたら、子育てに正解はないの

「育自」奮闘記

可愛い男の子に囲まれたゆつたりとした生活など望めるべくもなく、にぎやかな暴れっ子と、大量の洗濯物やその他の家事、学校から頂く4人分のお手紙や提出物に日々悪戦苦闘している。そんな慌ただしい時間の中で、子育てを楽しむ事や、

かもしれない。我が子の気質や才能をいち早く見抜くためにも、日々の変化を見逃さないよう、子どもの気持ちにしっかりと「寄り添って」いきたいと思ふ。応援はするけど「干渉」はしない。親として何ができるか、それは忍耐強く見守り困った時にそっと手を差し伸べる事なのではないだろうか。悪戦苦闘の日々が、いつか親子で楽しかった日々に変わる日が来ると信じていた。そして、我が子が人生を「生きやすくする」ために、私自身も楽しみながら子育てをしていきたい。

別府市立南立石小学校
PTA会長 古庄 由紀



津久見市連合PTAは、小規模校が大部分を占める9単位PTAで組織されています。会員数は1155名と少人数ですが、それを利点に「津久見だからこそできること。子どもたちの健全育成のために」をテーマに役員同士が意思疎通をはかり連携を深めながら市連P活動に取り組んでいます。

今年度の津久見市連合PTA指導者研修会では、九Pおきなわ大会での発表を控えた堅徳小PTAの研究発表を聞き「自他の違いを認め、思いやりの心を育むPTA活動」をテーマにグループ討議や意見交換を行いました。



球技大会で交流

津久見市連合PTA
会長 田島 岳自

「小さな地域だからこそできる」
「つながりを大切に」
津久見市連合PTA

また、小さな地域だからこそ、そのつながりを大切に、津久見市花火大会の後のゴミ拾い「ふれあいクリーン作戦」や区長会からの呼びかけの「ごみゼロ・ふれあいいっせ清清掃」を各単Pに呼びかけ、地域の方々と子どもたちが一緒に参加できるようにしています。子どもたちが地域に関わる事によって、地域の方々に「かわいがられ、健全育成につながる」と考えています。



質問に答える平川会長

「育もう！美ら心(ちゆらぐくる)磨こう！じんぶん(子どもは未来を担う宝)」を大会スローガンに、第58回九州ブロックPTA研究大会おきなわ大会が、10月26・27日に開催された。

「PTAのハートとハード整備で守ろう子どもと安心・安全」をテーマに石井博行P会長が提言発表を行った。

2日目の全体会では、沖繩出身の歌手・今井絵理子さんが、聴覚障がいを持って生ま

「育もう！美ら心(ちゆらぐくる)磨こう！じんぶん(子どもは未来を担う宝)」を大会スローガンに、第58回九州ブロックPTA研究大会おきなわ大会が、10月26・27日に開催された。

「育もう！美ら心(ちゆらぐくる)磨こう！じんぶん(子どもは未来を担う宝)」を大会スローガンに、第58回九州ブロックPTA研究大会おきなわ大会が、10月26・27日に開催された。

「PTAのハートとハード整備で守ろう子どもと安心・安全」をテーマに石井博行P会長が提言発表を行った。

2日目の全体会では、沖繩出身の歌手・今井絵理子さんが、聴覚障がいを持って生ま

第58回九州ブロックPTA研究大会
おきなわ大会

助言者の多田千栄教育庁社会教育課主任社会教育主事は「できることからはじめ緩やかに活動を広げていくことが、人権感覚を持った人間形成につながる」と講評。

「PTAのハートとハード整備で守ろう子どもと安心・安全」をテーマに石井博行P会長が提言発表を行った。

おめでとう
ありがとうございます

みんなで
がんがえる
コーナー

陽が落ちかけた頃、肩を並べて歩く学生服とセラー服に出くわした。顔を見合わせると、顔が紅い。顔を合わせると、顔が紅い。顔を合わせると、顔が紅い。

- 文部科学大臣表彰
PTA活動振興者表彰
池内 晴一
- 文部科学大臣表彰
日田市立朝日小学校教育友会
日本PTA会長表彰
- 大分市立吉野小学校PTA
由布市立湯布院中学校PTA
- 有松 一郎(大分市)
- 三浦 圭二(佐伯市)
- 若林 啓子(大分市)
- 日P創立65周年特別表彰
- 加来 桂一(中津市)
- 松永建比古(宇佐市)
- 諸富 正徳(杵築市)
- 中野 恭次(津久見市)
- 吉岡 宏美(竹田市)
- 松本布城美(宇佐市)
- 相部 秀彦(国東市)
- 吉井 賀代(臼杵市)
- 甲斐真由美(豊後大野市)
- 梅木 金治(玖珠郡)
- 佐藤 鈴香(大分市)
- 濱地 京子(大分市)
- 九州ブロックPTA協議会会長
- 佐伯市立本匠小学校PTA
佐伯市立蒲江翔南中学校PTA
- 松永建比古(宇佐市)
- 有松 一郎(大分市)
- 三浦 圭二(佐伯市)
- 若林 啓子(大分市)
- 吉岡 宏美(竹田市)
- (感謝状)
- 松永建比古(宇佐市)
- 若林 啓子(大分市)
- 江口 洋子(大分市)

保険にかかるお問い合わせ/事故のご連絡
<取扱代理店>
はぐく美保険サービス株式会社
大分市下郡496-38 大分県教育会館2F
フリーダイヤル (コール ハグクミ)
0120-56-8993
(受付時間:月~金 9:00~17:00) 「三井住友海上事故受付センター」
※上記時間外は右記にご連絡ください 0120-258-189
平成26年度の募集は2月から開始します。

立ちまらぬ保険。
MS&AD 三井住友海上
三井住友海上の安心
GK
〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2
www.ms-ins.com

自転車事故の発生状況
(警察庁データより作成)

死傷者の多くは
高齢者と
子供と若者

24歳以下と65歳以上で
過半数を超えています。

自動車との
事故が
8割以上

自転車乗車中の年齢別死傷者数の割合(平成22年)

65歳以上	18.1%
60~64歳	9.9%
55~59歳	8.6%
40~49歳	9.8%
30~39歳	11.4%
15歳以下	16.2%
16~24歳	22.0%

死傷者数 15万 1,631人

自転車乗車相手当事者別事故件数の割合(平成22年)

自動車	84.0%
対歩行者	1.8%
その他	2.9%
対自転車	6.3%
自転車	2.5%

自転車乗車相手当事者別事故件数の割合(平成22年)

自動車	84.0%
対歩行者	1.8%
その他	2.9%
対自転車	6.3%
自転車	2.5%

自転車乗車相手当事者別事故件数の割合(平成22年)

自動車	84.0%
対歩行者	1.8%
その他	2.9%
対自転車	6.3%
自転車	2.5%

自転車乗車相手当事者別事故件数の割合(平成22年)

自動車	84.0%
対歩行者	1.8%
その他	2.9%
対自転車	6.3%
自転車	2.5%

反抗期
どう接したらいいの? ③

大人への入口、その心を味わって

陽が落ちかけた頃、肩を並べて歩く学生服とセラー服に出くわした。顔を合わせると、顔が紅い。顔を合わせると、顔が紅い。顔を合わせると、顔が紅い。

「大人」が増えることを思う時、それを受けとめて、味見ができるまで待たねばならないのではなからうか。

電話から少し離れてお茶を飲む聞いてないよというように飲む(僕 万智)

みんなで考えるコーナー室長
岩尾 淳一

指定研。自信と好奇心で輝く子どもたちの瞳が印象的。朝夕、子どもたちを見守る地域の方を見る。改めて感謝。お誕生日おめでとう。私も母親歴2年。ありがたう。2年をかけての研究発表。気持ちだけは込めて届けたい。

日P「心のきずな61キャンペーン」
就学助成金支給について

これまでのたくさんのご協力ご支援ありがとうございました。全国の皆さまから寄せられた約3.5億円の支援金の支給手続きに入りました。対象は東日本大震災を起因とする児童・生徒で孤児・遺児となられた方です。今後は日本PTAの公益事業として教育支援事業「心のきずな61教育支援基金」を実施し、自然災害に備えた新たな支援の受け皿とし、平成29年3月まで募集します。引き続きのご協力をお願いいたします。

編集後記

指定研。自信と好奇心で輝く子どもたちの瞳が印象的。朝夕、子どもたちを見守る地域の方を見る。改めて感謝。お誕生日おめでとう。私も母親歴2年。ありがたう。2年をかけての研究発表。気持ちだけは込めて届けたい。